

# 女川中学生の句 (当時女川第一・第二中学校)

## 平成23年5月の句

見あげればがれきの上に こいのぼり  
夢だけは壊せなかった 大震災  
故郷を奪わないでと 手を伸ばす  
見たことない 女川町を受け止める  
風光り 女川町に 希望あり  
震災にいつもの幸せ 教えられ  
青い空 見守っていてね いつまでも  
今はなき おぼと歩いた 浜の道  
ガンバレと ささやく町の 風の声  
将来は 小さな子どもに 今を伝える  
みんなの前 笑えているかな 自分の顔  
真つ暗闇 どれだけ明かりを 灯せるか  
ただいまと 聞きたい声が 聞こえない  
晴れの日 海がキラキラ宝石箱  
中学校 制服なしでの 初登校  
窓ぎわで 見えてくるのは 未来の町  
複雑な 思いで見つめる 春の海  
辛くても あの人のために 一歩ずつ  
海水についたすずらん 咲いていた  
復興に向けて広がる 青い空  
消えてった 大切なもの また造る  
ありがとう 今度はわたしが 頑張るね



H23.4 入学式は図書室で。  
制服はありませんでした



女川一、二中  
大漁旗の下、笑顔で競技

## 平成23年11月の句

空の上 見てくれたかな 中総体  
あの人が 帰ってきてきた 夢を見た  
今の海 町を見つめて 何思う  
あの時は 無理だと思った 文化祭  
女川の 止まった時間 動き出す  
前進だ 私もあなたも 女川も  
和歌山で見た 故郷への募金箱  
ボール手に あの日遊んだ 場所さがし  
教室の 窓から見えた ショベルカー  
秋の空 積み上げた瓦礫 悲しそう  
白球を 追ったあの場所 仮設建ち  
空見ると 自分だけかな 虹見えた  
震災で 約束守れず 今悲し  
コンビニの 窓にきたない 水のあと  
聞いちゃった 育った家を こわす日を  
戻ってこい 秋刀魚の背中に 乗ってこい  
目をとじて 町のサイレン 八回目  
受験生 私の夢を 届けるために  
この番号 「出て」と 願い 数カ月  
教室の 窓から見えた ショベルカー  
自分自身 前に進むと 日々思う  
白い地に これから 絵の具を ぬっていく



女川第一中、第二中学校で23年5月から、約半年ごとに「宇宙フォーラム」の協力で俳句づくりに取り組んでいきました。女川中学校に統合した25年度も続いています。女川中学校のホームページでも紹介されています。